

血小板測定値の乖離によりクリオグロブリンの影響が疑われ、CD61 測定が有用であった 1 症例

○田谷 奈七,布瀬川 卓也,真下 友実,竹内 浩司(群馬県立がんセンター)

【はじめに】血小板偽高値の原因は、破碎赤血球やクリオグロブリンなどによることが知られている。血小板数の算定は出血性素因の検査として不可欠であり、正確な数値が臨床側に報告されない場合、必要な治療が行なわれない可能性もある。今回、血小板数高値の患者で、異なる分析機で測定した血小板数の乖離から最終的にクリオグロブリンの影響が疑われ、免疫学的血小板測定試薬（CD61）を使用した血小板測定が有用であった症例を経験したので報告する。【症例】75 歳、女性。肝硬変による肝不全にて入院。既往歴：肝硬変、肝癌、脳梗塞、食道静脈瘤。【検査所見】A 社：WBC $2.35 \times 10^9/L$ 、RBC $2.63 \times 10^{12}/L$ 、Hb $8.1g/dL$ 、PLT-o $592 \times 10^9/L$ 、PLT-i $576 \times 10^9/L$ 、B 社：WBC $2.36 \times 10^9/L$ 、RBC $2.60 \times 10^{12}/L$ 、Hb $7.9g/dL$ 、PLT-o $45 \times 10^9/L$ 、PLT-i $292 \times 10^9/L$ （1 か月前の血小板数 $72 \times 10^9/L$ ）。PLT は測定原理の違いにより数値の乖離を認めたため目視で確認したところ、血小板数は $50 \times 10^9/L \sim 70 \times 10^9/L$ 前後であることが推定された。そこで、再採血を実施し採血直後に測定したところ、血小板数は A 社：PLT-o $48 \times 10^9/L$ 、PLT-i

$55 \times 10^9/L$ 、B 社：PLT-o $47 \times 10^9/L$ 、PLT-i $49 \times 10^9/L$ となった。同検体を 3 時間後に再測定したところ、A 社：PLT-o $612 \times 10^9/L$ 、PLT-i $596 \times 10^9/L$ 、B 社：PLT-o $37 \times 10^9/L$ 、PLT-i $250 \times 10^9/L$ と再び乖離したため、再度血液像を確認したところ、クリオグロブリン様のものを認めた。そこで、検体を $37^\circ C$ で加温後に測定したところ血小板数が減少したため、クリオグロブリンの検査を実施した結果、陽性となった。また、CD61 測定を行なったところ、血小板数は $50 \times 10^9/L$ であった。以上のことから、血小板数の乖離と血小板数高値はクリオグロブリンが影響していると考えられた。【まとめ】今回、測定原理の違いにより血小板数に乖離が生じたことから、血小板偽高値を疑い、その原因を追及することができた。また、真の血小板数の判断に苦慮する場合は CD61 を用いた測定が有用であると考えられた。

(連絡先 0276-38-0771)